

4 事業の評価

評価基準					
[妥当性]事業のニーズはあるか		増加している	○	横ばい	減少している
[妥当性]事業手段は妥当か	○	現行の手段でよい		一部見直しが必要	見直しが必要
[妥当性]官民の役割は妥当か		市が行うべき	○	他の主体との協働も可能	市が行う必要性は薄れている
[妥当性]緊急的に取り組む必要があるか		急いで取り組む	○	中長期的に取り組む	緊急性は薄い
[有効性]更に効果が期待できるか		できる	○	あまりできない	できない
[有効性]成果目標はどの程度達成しているか	○	達成している (90%以上)		おおむね達成 (70~90%未満)	達成していない (70%未満)
[有効性]上位施策への貢献度		重要かつ高い貢献度がある	○	一定の貢献度がある	貢献度は低い
[効率性]事業費を抑制できるか	○	できない		制約はあるが可能性はある	できる
[効率性]受益者負担の見直し		適正	○	負担は求められない	見直しが必要

5 今後の方向性 (担当課評価)

事業内容の方向性	充実				
	現状維持			○	
	縮小				
	廃止				
		ゼロ	縮小	現状維持	拡大
コスト投入の方向性					

担当課評価の根拠	桜まつり・菊花展については、和歌山城内で開催される恒例イベントとして定着しており、また、園児や生徒を対象とした写生大会の受賞作品は天守閣に展示され、市民との協働で実施される動物園イベントは、本市のシンボルであり観光拠点でもある和歌山城の来場者の増加につながる要因であるため、今後とも事業を維持継続していきたいと考えている。
見直し・改善内容	和歌山公園写生大会については、未就学児童からの応募が大半を占めていることから、平成27年度から同児童を対象に新たに「教育長賞」を設け、応募者（幼稚園等）の奨励に努めた。今後は未就学児童の成長により、小・中学生、高校生への同大会の裾野の広がりに参加増に期待したい。@他の事業についても同様に、参加者や来場者の傾向から、より積極的なイベント参加を呼びかけられるよう工夫を進める。